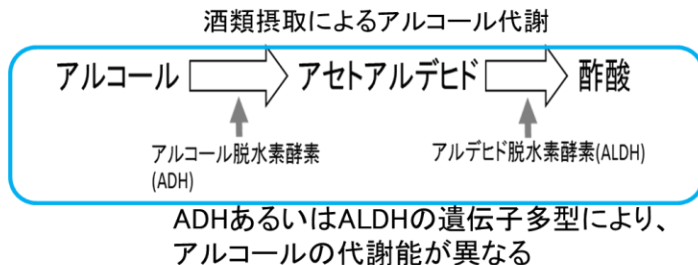


研究テーマ：焼酎代謝物の精神運動機能への影響

背景



目的 健常人が酒類摂取後、精神運動性試験あるいはVASに異常があるかどうか、それらがアルコール代謝に関する遺伝子型と関連しているかどうかを解析

適正な飲酒条件の探索、運転に適切な新基準の設定
安全な社会づくりへの貢献を目指す。

結果

若年層、高齢層ともに焼酎飲用後の呼気中アセトアルデヒド濃度と、ALDH2遺伝子型の違いに有意差がみられた
呼気中アルコール濃度は若年層での*1/*1でのみアルコール濃度が低かった

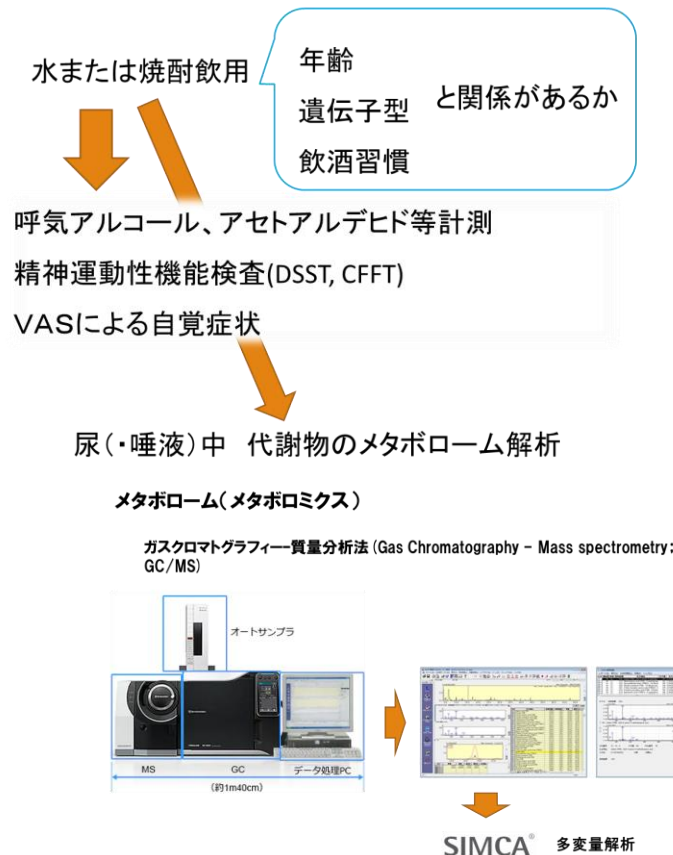
精神運動機能DSSTは両年齢層で焼酎飲用後15分後に低下が見られたが、遺伝子型での違いはなかった
ただし若年層のみ*1/*2では回復が遅い傾向にあった

自覚症状(VAS)で若年層*1/*2では有意に気分が高揚
若年層と高齢層の違いはある程度、飲酒習慣にも関係している可能性があった

- ・若年層では、*1/*2の自動車運転など社会的安全性へのアプローチ
- ・高齢層では、*1/*2の飲酒習慣へのアプローチ

適正飲酒へ年齢、遺伝子型を考慮した取組へつなげる

概略



結果

焼酎飲用後の尿のメタボローム(メタボロミクス)解析により
遺伝子型によって異なる代謝物が存在することが示唆された

遺伝子型により異なるアルコール代謝の
解明へつなげる